

台湾視察報告

令和 7 年 9 月 10 日～13 日

埼玉県議会議員

高木功介(文責)

諸井真英

1日目 台北の発展と台湾政情に関する 意見交換

松山文創園區(旧松山たばこ工場)

【視察目的】

歴史的建築物の保存活用及び産業振興政策の調査

【視察内容】

旧松山たばこ工場は日本統治時代に建設された施設であり、現在は「松山文創園區」として再整備されている。

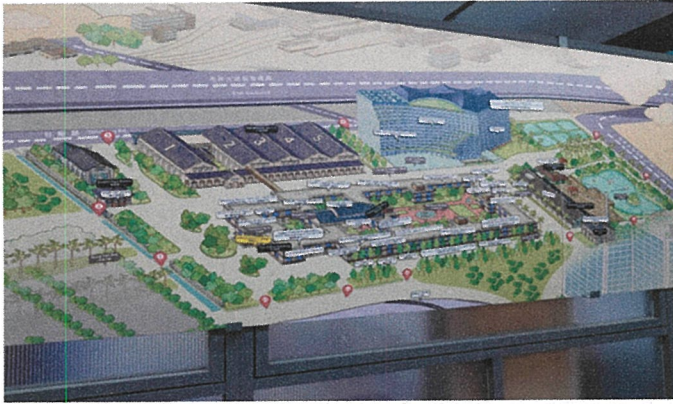
施設内にはスタートアップ企業向けのインキュベーション施設、文化施設、展示施設、飲食施設などが配置され、歴史的建築物の保存と新たな産業創出が両立されていた。

【得られた知見】

単なる歴史的建築物の保存ではなく、新たな経済活動や文化活動の拠点として活用されていることが特徴であった。

【埼玉県政への示唆】

埼玉県内においても歴史的建築物や産業遺産の保存と活用を両立させることで、地域活性化や観光振興につなげる可能性がある。



民主進歩党関係者との意見交換

【視察目的】

台湾の政治情勢及び日台関係に関する情報収集

【視察内容】

夜は台湾与党である民主進歩党(民進党)の幹部と意見交換を行った。

台湾の政党政治の現状、台湾を取り巻く国際情勢、日台関係の現状と今後の展望等について幅広く意見交換を実施した。

【得られた知見】

詳細については非公開とするが、日本国内で報じられる情報だけでは把握しきれない台湾社会の実情や現地の認識について理解を深めることができた。

また、台湾において日本との交流強化への期待が大きいことを改めて認識した。

台湾の民主主義は成熟しており、政党間の競争を通じて政策形成が行われていることがうかがえた。

【埼玉県政への示唆】

台湾は埼玉県にとっても重要な交流相手であり、経済、観光、教育、文化など多様な分野で交流拡大の可能性を有している。

地方自治体においても国際情勢への理解を深めることは重要であり、海外の政治・経済動向を把握することは、県内企業の海外展開支援や国際交流施策を進める上でも有益であると考えます。

2日目 台湾外交の最前線と台北 101

2日目の朝は豆腐粥から始まった。観光客向けの店舗ではなく、地元住民が日常的に利用する店を訪れ、台湾の生活文化に触れることを心掛けた。

午前中には台湾外交部所管の台湾日本関係協会を訪問し、張仁久秘書長と面会した。本会談は、台湾の対日窓口機関である台北駐日経済文化代表処の協力により実現したものである。

台湾と日本の間には正式な外交関係が存在しない。そのため一般的な意味での大使館や領事館は存在しないが、台湾側には台湾日本関係協会、日本側には日本台湾交流協会が設置され、実質的な外交窓口として機能している。

張秘書長は日台関係の最前線を担う要職にあり、今回直接お話を伺う機会を得られたことは大変貴重であった。

会談内容については触れられないが、今回の訪問を通じて台湾情勢についてより多面的な理解を得ることができた。日本国内で報じられる情報だけでは理解しきれない現地の空気感や社会認識があり、政治家は可能な限り現場に赴き、自らの目で見て、自らの耳で聞くことの重要性を改めて実感した。



昼食は地元でも高い評価を受けている杭州小籠湯包を訪問した。その後、人気かき氷店「冰讚(ビンザン)」を視察した。台湾の豊かな果物文化を背景とした商品開発や観光客誘致の工夫は、日本の観光振興を考える上でも参考となった。

午後は台湾を代表するランドマークである台北 101 を訪問した。

特に印象的だったのは、超高層ビル内部に設置された巨大なマスダンパーである。台湾は地震や台風の影響を受けやすい地域であり、その揺れを軽減するため世界有数の制震技術が導入されている。防災・減災を研究してきた立場からも大変興味深い施設であった。

また、東芝製の高速エレベーターは現在でも世界トップクラスの性能を誇り、建設には熊谷組も参画している。日本企業の技術力が台湾を代表する超高層建築を支えていることを誇らしく感じた。

国家鉄道博物館整備事業

【視察目的】

鉄道遺産活用及び観光振興政策の調査

【視察内容】

旧鉄道工場跡地を活用した国家鉄道博物館整備事業を視察した。

鉄道遺産を保存しながら観光資源として活用する大規模プロジェクトであり、さいたま市の鉄道博物館との比較という観点からも有意義であった。

【得られた知見】

産業遺産を単なる保存対象ではなく、観光資源及び都市ブランド形成の核として位置付けていることが確認できた。

【埼玉県政への示唆】

鉄道博物館を有する大宮地区においても、周辺地域との連携を強化することでさらなる観光振興につながる可能性がある。

3日目 日本外交の最前線と九份

午前中には日本台湾交流協会の片山和之所長を表敬訪問した。

日本台湾交流協会は、日本政府の台湾における実質的な外交機関であり、その役割は大使館に近い。片山所長は長年にわたり日本外交の第一線で活躍されてきた外交官である。

片山所長とは以前より面識があり、今回、埼玉県議会議員という立場で再会できたことに深い感慨を覚えた。

台湾情勢については日本国内でも様々な論評がなされている。しかし今回改めて感じたのは、現地を見ずして台湾を語ることの難しさである。

台湾社会には活気があり、経済は発展を続けている。一方で、安全保障環境についても極めて現実的な認識が共有されている。こうした実情は現地に立たなければ理解し難いものである。

台湾海峡の安定は日本の安全保障に直結する。また台湾は半導体産業をはじめ、日本経済にとっても重要なパートナーである。

地方議員であっても国際情勢への理解を深める努力は必要であり、今回の訪問はその意味で極めて有意義なものとなった。



午後には九份を訪問した。

九份はかつての鉱山町を観光資源として再生した台湾有数の観光地である。現地を視察して特に印象に残ったのは、遠隔地でありながら国内外から多くの観光客を集め続けている点であった。

その背景には歴史的景観の保存だけでなく、来訪者への高いホスピタリティがあると感じた。

私は中国茶について多少学んだ経験があるが、九份茶坊における茶芸は観光地のサービスとは思えないほど本格的であった。お茶を淹れる一つひとつの所作に妥協がなく、台湾茶文化の奥深さと誇りを感じることができた。

観光地としての魅力は施設整備だけで生まれるものではなく、その土地ならではの文化や体験価値によって支えられていることを改めて認識した。

4日目 帰国

最終日は帰国の途についた。

今回の視察では、台湾政府関係者、政党関係者及び外交関係者との意見交換を通じて台湾情勢への理解を深めることができた。また、都市開発、防災、観光振興など多方面にわたる知見を得ることができた。

4日間を通じて得た経験は、今後の県政活動に活かしていきたい。

おわりに

今回の台湾視察では、台湾政府関係者、政党関係者及び日本側外交関係者との意見交換を通じ、台湾情勢及び日台関係に対する理解を深めることができた。

また、歴史的建築物の活用、防災技術、観光振興、地域ブランディングなど、多岐にわたる分野について現地で直接調査することができた。

とりわけ、現場を訪れ、関係者から直接話を伺うことでしか得られない知見の重要性を改めて認識した。国際情勢の変化は地方自治体にも大きな影響を及ぼす時代であり、地方議員においても海外情勢への理解を深める努力が求められている。

台湾は日本にとって、安全保障、経済、文化、人材交流などあらゆる面で重要なパートナーである。今回の視察を通じて得られた知見を今後の県政活動や政策提言に活かし、埼玉県発展に資するよう努めてまいりたい。

なお、外交上の信頼関係及び機微な内容に関わる事項については、本報告書では記載を控えていることを申し添える。